

すこやか 7 月号

SANDA CITY HOSPITAL PRESS SUKOYAKA

第 198 号
月号



特集
FEATURE

新生児によくみられる病気 ～新生児黄疸～

小児科 副部長 井上 友子

■日本小児科学会認定
小児科専門医

■日本小児神経学会認定
小児神経専門医

黄疸とは

黄疸おうだんという言葉はよく耳にしますが、詳しくご存知の方は少ないと思います。全身に酸素を運ぶ赤血球は、寿命がくると壊れ新しい赤血球が造られていきます。赤血球が壊れると内部からヘモグロビンという物質が流出し、ビリルビンへと変化します。ビリルビンは肝臓で処理され、胆汁の一部となり、最終的に便や尿となり体外へ排出されます。従って赤血球が大量に壊れたり、肝臓の働きが悪くなるとビリルビンが増加して皮膚や目に沈着し、黄色く染まります。このような状態を「黄疸」と呼びます。

新生児特有の黄疸

小児や大人で黄疸といえば肝臓病のサインであることが多いですが、新生児には特有の原因があります。①赤血球が多い、②赤血球の寿命が短い、③肝臓のビリルビン処理能力が低い、④腸に分泌されたビリルビンが再吸収されやすい、など胎内環境に適した体質が残るためにビリルビンが高くなりやすく、ほぼ全ての新生児に生後5～7日目をピークに生理的黄疸が生じますが、程度は軽く自然に治ります。しかし、お母さんとの血液型不適合で赤血球が大量に壊れる「溶血性黄疸」や「多血症」、「感染症」、「早産・低出生体重児」などに伴う病的な黄疸は、より重症で長引きやすく、高濃度のビリルビン

は、永続的な脳神経障害を引き起こすことがあるため治療が必要です。

治療法

治療には主に「光線療法」と「交換輸血」があります。光線療法とは、光線を皮膚に照射してビリルビンの構造を変化させ、体外に排泄させやすくする治療です。目を保護するためアイマスクが必要ですが、赤ちゃんへの負担は軽く安全な治療法です。多くの黄疸は1～2日間の光線療法で改善しますが、重度の黄疸では、赤ちゃんの血液を一部入れ替える「交換輸血」が必要になることも稀にあります。当院で出生される赤ちゃんは、殆どが光線療法で治療可能ですが、交換輸血が必要になった場合には、地域周産期母子医療センターである済生会兵庫県病院に紹介するなど、地域で連携しながら常に適切な医療を提供できるよう心掛けています。



光線療法の様子

Topics

三田市民病院トピックス

患者さま満足度調査の結果報告

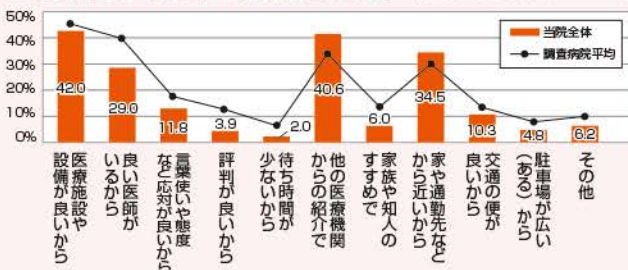
昨年、入院・通院患者さんを対象にアンケート調査を実施しましたので、概要を報告します。

患者さま満足度調査の結果〈外来部門〉

平成28年11月28日～12月2日実施、回答者数896人

平均年齢：61.2歳
性別：男性48.5%、女性51.5%

■当院の選択理由(複数回答可) 有効回答者数:747人



■診察待ち時間 有効回答者数：631人

平均待ち時間：44.8分

※1 調査病院平均との差：-2.2分

■総合評価点 有効回答者数：750人
「総合的に当院を100点満点で評価すると、何点ぐらいになりますか」

※2 平均評価点：80.3点

調査病院平均との差：+2.1点

患者さま満足度調査の結果〈入院部門〉

平成28年11月21日～12月22日実施、回答者数405人

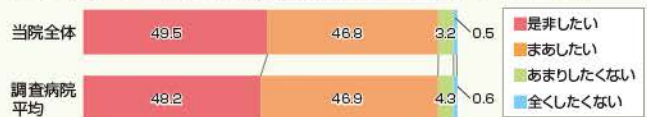
平均年齢：62.9歳
性別：男性60.1%、女性39.9%

■当院の選択理由(複数回答可) 有効回答者数:365人



■紹介・推薦意向 有効回答者数：372人

「知人等に、当院を紹介や推薦したいと思われますか」



■総合評価点 有効回答者数：369人
「総合的に当院を100点満点で評価すると、何点ぐらいになりますか」

平均評価点：87.1点

調査病院平均との差：+2.1点

※1 調査病院平均：250床以上500床未満の45病院で同内容の調査を実施した平均値(平均病床数:354床)

※2 平均評価点：「非常に満足」を100点、「満足」を75点、「どちらともいえない」を50点、「やや不満」を25点、「不満」を0点とした平均点



バスの発車時刻をお知らせしています

バスを利用される方の利便性の向上を図るため、神姫バス株式会社の協力を得て、中央受付のテレビ横に「バスロケーション表示機」を設置しています。病院敷地内と病院前道路のバス停の時刻や運行状況をスムーズにご確認いただけますので、ご活用ください。



病棟紹介 4階東病棟

4階東病棟 課長 石田 弘美

病棟の概要

4階東病棟は、産婦人科・小児科を中心とする混合病棟で、女性専用の病棟になっています。当病棟に入院される患者さんの診療科はさまざま、対象年齢も出生直後の赤ちゃんからご高齢の方まで幅広く入院されています。そのため患者さんが少しでも快適に、安心して入院していただけるように入院環境に十分配慮し、ご出産の方や小児科のお子さんと他科の患者さんが別々の病室になるようにしています。病棟スタッフは、3チームに分かれて患者さんを担当し、妊産婦や出産した母子のみならず、女性特有の疾患や検査・手術を受ける患者さんが安心して医療が受けられるように、熟練したスタッフが専門的知識や技術を提供しています。

三田市唯一の分娩施設

三田市唯一の分娩施設である三田市民病院は里帰り分娩も含め、平成25~28年度の平均年間分娩数は約380件で、およそ1日1人のペースで赤ちゃんが生まれています。病棟と産婦人科外来は常に連携し、妊娠中から出産、産後、育児期間を通して助産師が継続して支援しています。周産期チームは、産婦人科医師4名(平成28年10月から心強い女性医師1名が配属されました。)、小児科医師2名、病棟助産師20名、外来助産師3名で力を合わせ、またそれぞれの役割を発揮して安心・安全な出産に尽力しています。

安心の子育てのために

三田市は子育て先進都市を目指し、豊かな自然と美しい町並み、そして安心して子育てができる環境の中、「子育てするならゼッタイ三田」を合言葉に子育てを支援しています。4階東病棟では、三田市が目指している子育て支援の一環として、市民病院としての役割を果たしたいと考えています。そのために、妊娠、出産から子育て期にわたる切れ目ない支援として、退院後も母乳の悩みや育児に関する相談などを行っています。また、心配な子どもの病気も地域医療機関と連携を密にして、専門的な治療が必要な時はすぐに入院していただける体制を整えています。



産後健診



沐浴指導



入院中のお子さんへの学習支援



産婦人科医師4名と病棟スタッフ

INFORMATION

新人職員の抱負

4月から当院で働き始めた職員を代表して、2人が抱負を語ります。

看護部 4階東病棟 おおわき みほの 大脇 実穂乃

4月より助産師として勤務しています。社会人として、看護職として働くことに多くの不安を抱えていましたが、同期や熱心かつ丁寧に指導して下さる職員の方々のおかげで少しずつ不安がなくなりました。現在は楽しく、充実した日々を過ごすことができます。

研修では、大学での学びの振り返りとともに、更に実践に必要な知識や技術を学びました。また、グループワークも多く、自らの考えを伝えることや周りの意見を聞き、話し合うことで学びを深めることができました。

今後も自ら学ぶ姿勢を忘れず、新しい情報を取り入れ、看護ケアに繋げていきたいと思います。これからの1日1日を大切に、常に目標を持ち、成長し続けられるよう心掛けていきたいと考えています。同期で高め合いながら、「看護観・助産観」を深め、母子とその家族に寄り添い、常に患者さん、ご家族の方を第一に考え、的確な看護ケアや助産ケアを提供できる助産師を目指したいです。



リハビリテーション科 いい お ゆうか 飯尾 優花

4月より理学療法士として勤務しています。現在先輩方から指導を受けながら、患者さんの理学療法を担当させて頂いています。まだ慣れていないことや知識が足りない部分が多いですが、先輩方に知識や技術を教わりながら、日々勉強し充実した毎日を送ることができます。

これから先輩方のように患者さんや職員の方から信頼される理学療法士になりたいと思っています。そのため勉強会や研修に積極的に参加し、さらに知識や技術を身につけ、治療に活かしていきたいと思っています。患者さんの日々の変化を見落とさず、どのような治療が必要なのか常に考えるようにし、患者さんの状態に合わせて治療内容を変え、少しでも早く元の生活に戻っていただけるように努めます。自分ができることを少しずつ増やし、日々成長し続けられるよう努力していきたいと思っています。



医師からのメッセージ

日々の診療に励む医師から、「すこやか」読者の皆さんへのメッセージをお届けします。

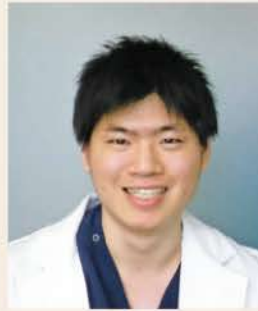


かさぎ よしひろ
笠置 益弘

- 診療科 麻酔科
- 専門分野 麻酔科一般
- 資格 日本麻酔科学会
専門医 指導医
日本小児麻酔学会認定
医

message

当院では麻酔科専門医と他科が連携して、患者さんの術後痛を軽減し、安全な麻酔・手術を受けていただける体制ができています。手術以外でも、毎週木曜日に専門医によるペインクリニック外来がありますので、痛みでお困りの方は是非受診してください。



かしたに ゆうや
榎谷 悠也

- 診療科 初期研修医

message

三田市民病院初期研修医2年目の榎谷と申します。20年以上過ごした四国を離れ、昨年4月から三田の地で働かせていただいております。自分にできることをコツコツ積み重ねていきたいと思いますので、これからもよろしくお願い致します。



〈栄養科〉下羅 久美

新生児が成長し、5、6カ月になると離乳食が始まります。離乳食は、お子さんの成長に合わせて3つの時期に区分されます。各時期の実例とポイントをまとめましたので、参考にしてください。

	前期(5、6カ月)	中期(7、8カ月)	後期(9カ月～)
メニュー	粥 ほうれんそう	粥 鯛(茹でる) 煮物(じゃが芋・人参)	粥～軟飯 鮭のチーズ焼き スクランブルエッグ(ブロッコリー) ヨーグルト和え(生ブルーベリー)
味付	味なし	鮭:味なし 煮物:だしのみ	鮭:チーズのみ 卵:塩のみ
形態	なめらかにすりつぶす (ポタージュぐらい)	舌でつぶせる固さ (豆腐ぐらい)	歯ぐきでつぶせる固さ (指でつぶせるバナナぐらい)
ポイント	1日1回食 素材の味を経験する時期なので味付けはせず、無理せず食べる量が十分です	1日2回食 いろんな味や舌ざわりを楽しめるように食品の種類を増やしていきましょう	1日3回食 食事のリズムを大切に、鉄分が豊富な食材を積極的に利用しましょう

近隣医療機関のご紹介

市民病院は地域医療連携を推進します。かかりつけ医を持ちましょう!



竹本整形外科 竹本 勝一 院長

平成28年10月にウッディタウンに開院して丸20周年を迎えました。ここまでこられたのは、患者様や周りの方々の支えあってこそだと感謝しております。

時間帯によっては患者様を長時間お待たせすることもございますが、スタッフ一同、親身になって対応させていただくよう心がけております。

当院で治療が難渋する場合は、三田市民病院はじめ基幹病院への紹介をさせていただいておりますが、特に三田市民病院とは日頃から密の連携を取らせていただいております。諸先生方が十分な治療を行えるように今後とも初期治療につとめさせていただく所存です。

患者様におかれましては、下記連絡先までお問い合わせの上、受診していただけると幸いです。

〒669-1321 三田市けやき台3-76-4

電話 079-565-6030

診察科目 整形外科、リウマチ科、
リハビリテーション科

休診日 木曜・日曜・祝日、
月曜・火曜・水曜・土曜日の午後



診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	8:30~11:30	○	○	○	×	○	○
午後	3:30~6:30	×	×	×	×	○	×

おかもと小児科 岡本 光治 院長

当院は、平成6年にウッディタウンけやき台に、小児科医院として開院いたしました。診療は、小児科の特徴で発熱などの感染症疾患が中心のため、感染予防と待ち時間短縮を目的に、診察は予約制にしています。

最近、感染症の診断もインフルエンザだけでなく、迅速診断のできる細菌やウイルスが増え、早期診断により治療が的確に行えるようになりました。また、病気を予防するワクチンの種類も多くなり、そのため赤ちゃんは生後2ヵ月から複数のワクチンを同時に注射することで、流行する病気も以前と比べずいぶん変化しています。

開院して23年になりますが、これからも市民病院小児科や済生会兵庫県病院小児科など地域の中核病院と連携し、子どもたちのために最善の医療を提供できるよう、スタッフ一同とともに尽くしていきたいと思っています。

〒669-1321 三田市けやき台3-76-5

電話 079-565-1699

HP <http://web.clinicn.jp/okamoto/>

診察科目 小児科、内科

休診日 木曜・日曜・祝日、土曜日の午後



診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	○	○	○	×	○	○
予防接種 乳児検診	3:30~4:00	○	×	○	×	○	×
午後	4:00~6:30	○	○	○	×	○	×

編集後記

これからの季節は気温も高くなり、何をしても油断は禁物。今年も暑い夏が予想されますので、日焼けと熱中症の対策は必須です。特に体温調節と水分補給に注意して、楽しい夏の思い出をたくさん作りましょう。

すこやか(第198号)
平成29年7月発行

【編集・発行】
三田市民病院
学術広報推進委員会

 三田市民病院

〒669-1321 三田市けやき台3丁目1番地1
TEL.079-565-8000 (代表)
<http://www.hospital.sanda.hyogo.jp/>